

農山漁村地域整備計画

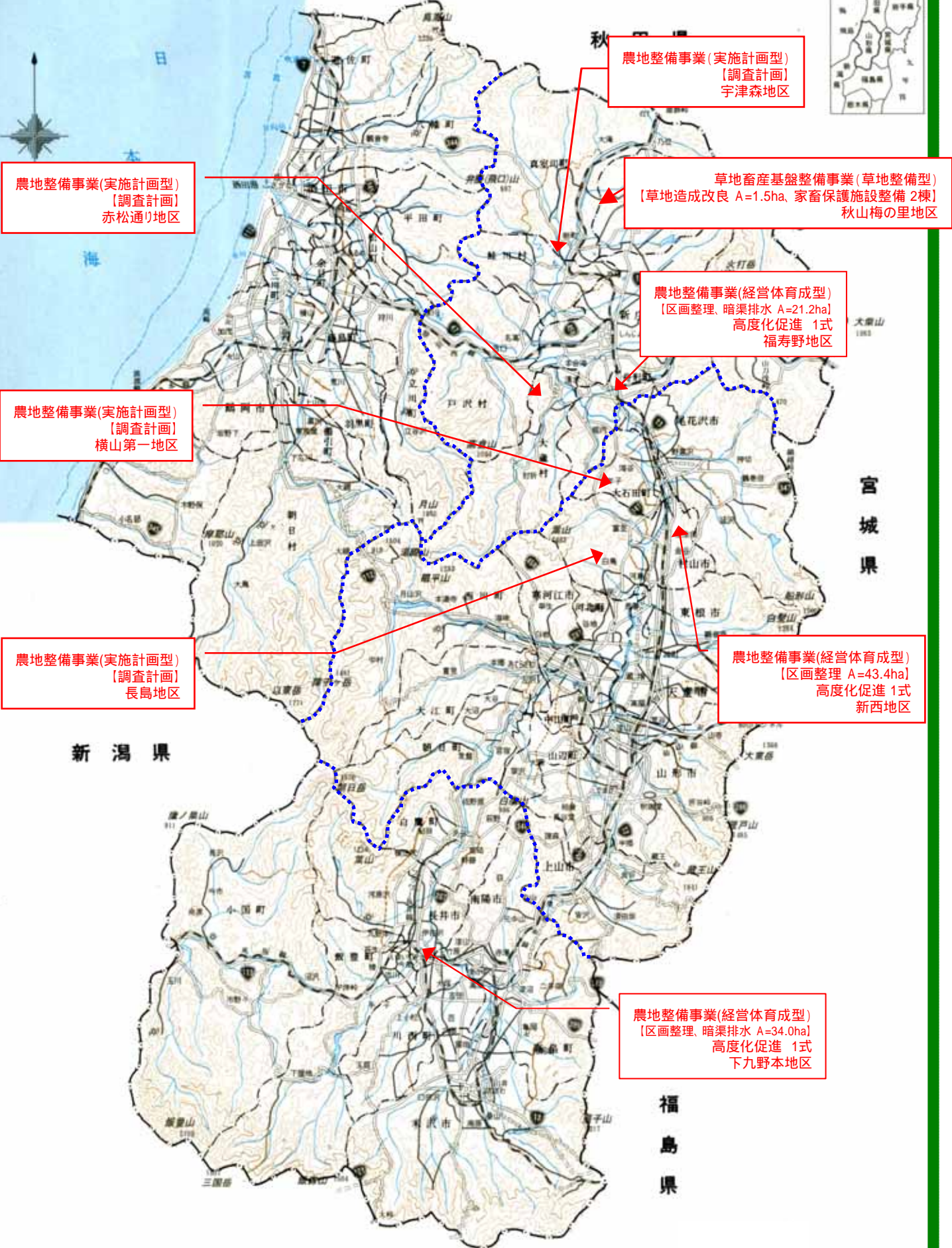
計画の名称	山形農山漁村元気再生計画
計画策定主体	山形県
対象市町村	山形市、村山市、長井市、天童市、大石田町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村
計画の期間	平成22年度 ~ 平成26年度（5年間）
計画の目標	<ol style="list-style-type: none">1. 農業用水を安定確保する水利施設の整備 ストックマネジメントの施策により、農業水利施設への安定的な用水供給機能を確保し、食料供給基地やまがたの食料供給力の強化を図る。2. 農業の持続性を確保する農地基盤の整備 持続的な農業の発展を支える競争力の高い経営体の育成・支援及び優良農用地の維持保全を推進し、“食料供給基地やまがた”の足腰の強化を図る。
評価指標	<ol style="list-style-type: none">1. 農業用水を安定確保する水利施設の整備<ol style="list-style-type: none">1-1 農業水利施設の補修・更新により、安定的な用水供給面積を本来供給している496haに復元する。2. 農業の持続性を確保する農地基盤の整備<ol style="list-style-type: none">2-1 区画整理実施エリアにおいて、担い手等への面的集積を15.2ha(H22時点)から64.9ha(H26)に49.7ha増大させる。また、担い手への農地集積を促進するため、農山漁村地域整備交付金で実施する区画整理3地区で土地利用調整の取組を進める。2-2 草地造成改良及び家畜保護施設等の整備により、飼料自給率の向上及び畜産経営の低コスト化と規模拡大を図り、公共牧場の周年預託頭数を0頭(H22時点)から200頭(H26)に増加させる。2-3 平成23年度以降の計画的な事業実施を図るために、農地整備事業(経営体育成型)4箇所の計画を策定する。

対象事業

	事業名	地区名	事業実施主体	工期	(千円) 総事業費	主な事業内容等
1-1-	水利施設整備事業(基幹水利施設保全身型)	三郷堰	山形県	H22-H26	525,000	頭首工補修 1式 水管理システム 1式
	うち全国防災	-	-	H23	(63,000)	頭首工補修 1式
2-1-	農地整備事業 (経営体育成型)	下九野本	山形県	H22-H25	585,900	区画整理 34.0ha (面的集積3.9ha 27.5ha)
2-1-		福寿野		H22-H26	346,500	区画整理 21.2ha (面的集積2.6ha 13.6ha)
2-1-		新西		H23-H26	694,050	区画整理 43.4ha (面的集積8.7ha 23.8ha)
2-1-	農地整備事業 (経営体育成型)	下九野本	県・野川土地改良区	H22-H26	2,415	土地利用調整・ 利用集積に向けた促進 支援
2-1-		福寿野	県・舟形町土地改良区	H22-H26	1,050	
2-1-		新西	県・富並川伊蔵堰土地改良区	H23-H26	3,000	
2-2-	草地畜産基盤整備事業(草地整備型)	秋山梅の里	(財)やまがた農業支援センター	H22-H24	273,221	草地造成改良 1.5ha 家畜保護施設整備2棟
2-3-	農地整備事業 (実施計画型)	長島	山形県	H23	10,500	ほ場整備(調査計画)
2-3-		横山第一		H23	9,000	
2-3-		赤松通り		H23	12,000	
2-3-		宇津森		H23	12,000	

合 計	2,431,136	
-----	-----------	--

山形農山漁村元気再生計画 [2-1, 2-2, 2-3] 位置図



農地整備事業(実施計画型)
〔調査計画〕
赤松通り地区

農地整備事業(実施計画型)
〔調査計画〕
宇津森地区

草地畜産基盤整備事業(草地整備型)
〔草地造成改良 A=1.5ha, 家畜保護施設整備 2棟〕
秋山梅の里地区

農地整備事業(経営体育成型)
〔区画整理、暗渠排水 A=21.2ha〕
高度化促進 1式
福寿野地区

農地整備事業(実施計画型)
〔調査計画〕
横山第一地区

農地整備事業(実施計画型)
〔調査計画〕
長島地区

農地整備事業(経営体育成型)
〔区画整理 A=43.4ha〕
高度化促進 1式
新西地区

農地整備事業(経営体育成型)
〔区画整理、暗渠排水 A=34.0ha〕
高度化促進 1式
下九野本地区

福島県

新潟県

宮城県



農山漁村地域整備計画に係る事前評価

1 計画の名称 山形農山漁村元気再生計画

2 計画策定主体 山形県

3 評価事項及び内容

(1) 目標の妥当性

山形県農林水産業振興計画に即した計画目標である。

関係市町村が作成する農業農村整備事業管理計画との整合性がとれている。

(2) 整備計画の効果・効率性

整備計画の目標と整合性がとれる定量的指標となっている。

定量的指標と事業内容の整合性がとれている。

事後評価が可能な適切な指標となっている。

地区毎の個別事業の費用対効果分析結果が、1.0 以上であり、事業による効率性が十分見込まれる。

(3) 整備計画の実現可能性

地形、地質、地理状況から見て、個別の事業実施が技術的に可能である。

地域関係者等から同意又は理解を得られている。

水利施設の整備については、各地区とも施設更新を主な内容としており、関係者から施設の機能維持・保全を強く要望されており、技術的にも可能である。

農地基盤の整備については、農地集積に対する関係者の意識も高く、面的集積の調整が可能である。

4 評価結果

以上により、山形農山漁村元気再生計画は、目標の妥当性、整備計画の効果・効率性、整備計画の実現可能性について問題はなく、妥当である。